

平成30年度事業報告

<総括>

平成30年度は、平成23年11月に策定した「長期ビジョン～10年後のありたい姿～」の第三サイクル（平成30年～32年度）の初年度でありました。

第二サイクル以降、継続して、まず「人づくり」をしっかり進めることを基本に事業計画を展開してまいりましたが、福祉の世界ひいては我が国全体の課題ともなっております人材不足の影響を受け、介護職員が充足できない状態が発生しました。このためショートステイの受け入れを一時縮小せざるをえない事態を招きました。

種々対応に努めた結果、2019年4月からは元の受け入れ体制に戻すことができましたが、人材の確保は、引き続き当面の最重要課題であり、法人運営にとって大きなリスクになり得ることを痛感させられました。

以上のような状況の中、事業計画に沿った取り組みは全体的に遅れることとなりました。次年度（2019年度）については、この遅れを取り戻すべく進めてまいります。

【職員が、「エルホーム芦屋に勤めて良かった」と言える事業団】

I. 人（職員）づくり

「人づくり」では、従来より継続している外部研修への積極的な参加に加え、各事業における委員会等が主導で、現在必要とされるテーマを取り上げ、施設内研修会や勉強会を開催することを推し進めることで、知識・技術の向上に努めました。具体的には、次のとおりです。

介護現場における腰痛予防について、これまで介護職員等を対象に「腰痛検診」や全職員対象に「腰痛予防体操」を啓発・実践し、また、ベット・車椅子間の移乗時の「トランスボード」や「イージーロール」を活用した平行移動等に取り組んでまいりましたが、今年度は、更に踏み込んで「抱えない介護」を模索し、職員が腰への負担を減らすことで腰痛を予防するだけでなく、ご入居者・

ご利用者にも安心して介護を受けて頂ける方法を追求しています。

このような取り組みを進める中で、職員の意識改革も目指しつつ「抱えない介護を目指す」研修を開催しました。

また、管理栄養士を講師として、「やっぱり食事はバランスが大切」や「介護食体験」といった、ご入居者・ご利用者さんのためばかりでなく、職員自身の食生活についても見直すきっかけづくりになる内容をテーマに、研修会を開催しました。加えて、製薬会社のスタッフを講師に招き、「脱水状態の適切な水分の考え方（感染症への対策として）」といった観点からの研修や、「嚥下調整食と摂食・嚥下障害」についての研修も開催しました。

これらの研修会・勉強会は、施設・事業所が、日常業務の中での疑問や課題を取り上げ学んでいくことで、実のあるものになっていると考えます。

本年度は、以上のような施設内研修に加え、金銭の取扱いを含む業務処理のより一層の厳正化を進めつつ、意識徹底を図る「コンプライアンス・リスク管理」研修および「内部監査における着眼点」研修等も開催いたしました。

施設外研修については、兵庫県社会福祉協議会や芦屋市医師会、県介護福祉士会、県老人福祉施設協会、県シルバーサービス事業者協議会等が主催する研修（例：「介護福祉士実習指導者講習会」や「接遇対応研修」等）に、職種や経験年数等を勘案して、また本人のキャリア面談結果等も踏まえ最適任者を厳選の上派遣し、専門知識や技術の向上に最大限つながるよう図りました。（54研修延べ99名）

また、他施設等との人脈づくりや情報交換も兼ねて、当法人が加入する県老人福祉施設協会阪神ブロックで開催された「看護部会勉強会」や「施設長部会」にも積極的に参加者を出すようにしました。

エルホームでは従来より、新入職員に対して先輩職員をパートナーに任命し、その者を中心に新入職員の育成を図るパートナー制度を進めてきておりますが、本年度もパートナーと法人幹部クラスが節目毎に懇談会を開催しつつ、新人（2名）の育成に力を注ぎました。

人の確保が難しくなり、慢性的な人員不足に陥っていることから、職員紹介制度を導入し、その後、追加見直し等も行いつつ、最大限の人材確保に向けた取り組みを進めました。また、実習生の受け入れや学生の施設体験も、職員の負担を考慮しつつも、可能な限り数多く受け入れました。

4月より正職員採用することとなった職員に話を聞くと、「学生時代に体験に

来た時の良い印象が、当施設を志望した動機になっている」ということでした。このように施設体験や実習が、長い目で見れば採用にも結びついていると考えられています。

職員のメンタルヘルスへの取り組みとして、従来からのストレスチェックに加え、ストレスへの対処方法等を学べるよう「アンガーマネジメント～気持ちよく働き続けられるために～」研修も開催しました。その他、職場環境の改善等、安全衛生委員会を中心に取り組みを進めました。

【ご入居者（利用者）やご家族から、「エルホーム芦屋の職員さんにお世話になって良かった」と言ってもらえる事業団】

Ⅱ. サービス（施設、在宅）

「サービス提供」では、複合施設の強みを活かした切れ目のないサービスができるよう施設、事業所が情報の共有を図り、迅速かつ親切なサービス提供に努めました。

新しい取り組みとしましては、「料理療法」をデイサービス中心に進め、外部の事例発表会にも参加し、その成果を発表いたしました。

また、懸案としていた温冷配膳車および温冷カートの導入も、3月に実現することができました。

【施設サービス】

特別養護老人ホーム・老人保健施設では、ご入居者のサービス内容を検討するケアカンファレンスを都度開催し、ご入居者お一人おひとりにあつたサービス提供に継続して取り組みました。

ケアハウスでは、入居者懇談会を開催し、ご入居者の皆さんのニーズをつかむと共に、緊急時受診同行サービスや入浴サービスといった新しいサービスを提案し導入を図るなど、より良い運営を目指し取り組みました。

【在宅サービス】

在宅での生活を継続支援するため、居宅介護支援事業所において、ご利用者やご家族のニーズをしっかりと把握し、エルホーム内の他の事業所（ショートステイ・訪問リハビリ・ヘルパー・デイサービス事業）も含め、サービス事業者と調整し、よりよい支援に努めました。

また、当施設内の各事業所も、居宅介護支援事業所（エルホーム以外も含めて）との連携を図る他、事業所間相互でも情報を適切に共有し、サービス提供に取り組みました。

ヘルパー事業につきましては、介護保険上の見直し動向も踏まえて、身体介護に力点を置くよう取り組みを進めましたが、サービス提供が十分にできる体制が組める目途が立たないこと等から、ヘルパー事業とデイサービス事業の一体運用を目指した取り組みを進め、次年度から両事業所を所長が兼務する等、最適な事業運営を模索しています。

【共通：外出行事やイベント開催等】

特別養護老人ホームや老人保健施設では、「近隣公園でのお花見」や「紅葉時期の市内ドライブ」、「神戸どうぶつ王国」、「回転寿司店」「買い物」等の外出行事、「お好み焼き大会」や「フルーツパーティ」、「クッキー・クレープ作り」、「すいか割・カキ氷」等の施設内行事を開催しました。

また、風物詩となっている「盆踊り・花火大会」や「年末餅つき大会」等も開催しました。

ケアハウスでは、食事についてのご要望が特に高いことから、食事行事の充実に取り組み、「グラタン」、「シフォンケーキ」、「バーベキュー」、「鮭のクリームスパゲティ」、「ちらし寿司」など、毎月何らかの工夫をこらしました。

また、ドライブを兼ねて「寿司」「珈琲」「アイスクリーム」といった飲食に外出したり、例年の干し柿づくりを行ったりしました。

デイサービスでは、昨年よりはじめた「料理療法」を推し進め、長年慣れ親しんできた料理を通じて、楽しみや、やる気を持って頂き、役割を担ってもらうことで心身の状態の向上につながる取り組みを行いました。その上で、更に進んで、ご利用者のご状態を個別に見ていくしくみを整えようとしています。

また、本年度は老健とケアハウスが合同でおやつ行事を実施し、チーズスフレケーキを提供するなど、施設・事業所間でお互いに協力し合うやり方を模索しました。

ご家族参加型の行事として、特別養護老人ホームのご家族「懇談会」で様々なご説明を行ったり、老人保健施設においては昨年に引き続き「焼きそばパーティー」や「クリスマス会」等で、ご家族様にも手伝って頂いたりしながら、楽しい一時を共有いたしました。

デイサービスでは、例年行っている「ご家族交流会」を、より参加して頂きやすい時間を調整する等工夫しつつ開催し、18世帯（19名）が参加されま

した。ご家族様からご意見を頂くとともに、ご家族様同士が情報交換し支えあえる場を提供することとなり、大変有意義な交流会とすることができました。

また、地域密着型デイサービスでは、運営推進会議を年2回開催し、ご家族代表者や民生児童委員の他、行政関係者も参加して頂き、事業運営の報告や意見交換を行いました。

ケアハウス、デイサービスご利用者を対象に、安全で安心した生活の支援を図るべく、芦屋警察署に講師をお願いし、「交通安全教室」を開催しました（28名参加）。

感染症への対応については、定期的に注意喚起し、意識を高め予防に努めてまいりました結果、多くの他施設において、インフルエンザがまん延する中、エルホームにおいては広がることなく、無事に流行の季節を乗り切る事ができました。

平成25年より開始した「サービスアンケート調査」も6年目となりましたが、各施設・事業所のご家族・ご入居者さま（354名）にお送りし、200名（56.5%）の方々からのご回答をいただきました。

昨年度より全体的に良い評価を頂き、ご家族様等から頂きました、たくさんの「お褒めの言葉」は、各所属長が職員に周知し、共有を図るようにしました。

一方で、環境整備や接遇、食事等について、ご意見・ご要望も頂き、法人全体で共有すると共に、改善に取り組んでいます。

特に、従来から数多くご要望を頂いております食事関係の改善につきましては、温冷配膳車および温冷カートの導入を図り、より美味しく食事を召し上がって頂けるよう工夫をこらしました。

【地域から、「エルホーム芦屋があって良かった」と喜んでもらえる事業団】

Ⅲ. 地域との共生

「地域との共生」では、芦屋市からの受託事業である生活支援体制整備(第2層)事業(地域支え合い推進)に取り組み、あらゆる地域会合(宮川地区・打出浜地区小地域ブロック会議等)やイベント(あしや健康フェア、茶屋秋祭り等)に参加しています。参加により得た地域の課題は、市内各圏域の生活支援コーディネーターや地域包括支援センター、行政機関が参加する会議で議論し、手探りな

がら、地域住民のネットワークづくりを進めました。

また、芦屋市内だけでなく阪神7市1町の生活支援コーディネーターが集まったの情報交換会等にも積極的に参加し、他市の取り組みに関する情報収集も行いました。

平成29年5月より始めました「芦屋市ひとり一役活動推進事業」は、芦屋市全域で、施設や高齢者の居宅にて、ボランティア活動の実績に応じてポイントが付与され、たまったポイントを換金(年間上限5千円)することができる事業であり、当所もこの制度をうまく活用しながら、昨年以上にボランティアの方々との連携強化を図りました。その結果、述べ1,800人のボランティアの方々の活動を得ることができました。「芦屋市全体の約三分の二が、当所での活動である」との報告を芦屋市から受けています。

地域の一員として、相互に協力できる関係づくりを目指し、学校や地域の行事等を把握し、できる限り参加しました。

具体的には「芦屋まつり」や兵庫県国際高等学校・芦屋国際中等教育学校の「合同文化祭」、「宮川小学校コムスク夏祭り」、浜町自治会「浜町クリーン作戦」等に参加すると共に、今年も「芦屋オープンガーデン2018」に登録し、ボランティアの皆さんに、中庭の綺麗な花をお世話頂き、多くの市民の方々に観賞していただきました。

平成29年度に引き続き、浜町自治会、尼崎信用金庫打出支店とエルホームの三者合同で、「あなたの預金を特殊詐欺から守りましょう」をテーマに、「防犯セミナー」を開催しました。実際に起こった事例を交えての内容であり、地域住民25名の方々に参加頂きました。

また、浜町自治会や子供会が主催され、芦屋メンタルサポートセンターにて新しく開催されました浜町餅つき大会にも、参加協力することができました。

毎年夏休みに浜町の小学生を対象に開催しています「小学生高齢者ふれあい体験」について、今年度は、かき氷大会にして、より多くの子供達に来てもらえるよう工夫いたしました。

地域住民を対象とした「認知症予防教室」についても、今年度については、タッチパネルを活用した認知症テストに加え、回想法を取り入れました。回想法については、シルバー人材センターより講師を迎え、その後、回想方セミナーとして発展させることができました。

毎年好評で定例となっている幼児サークル（さるっ子クラブ）を対象にした

「歯磨き教室」でも、歯科衛生士の資格を保有する職員が、歯磨きについて分かり易く説明しました。また、出前講座として、呉川町や大東町における「口腔ケア勉強会」にも、この職員を講師派遣しました。

幼児サークルや打出保育所・宮川幼稚園を始めとする園児らと各施設ご入居者との「ふれあい」も、引き続き企画し交流を深めました。

中学生ふれあい交流会も開催し、中学生25名をエルホームにお迎えし、「大きな紙芝居」を実演しました（その他の参加者は35名）。

恒例の「トライやるウィーク」では、精道中学校や潮見中学校から13名の中学生を受け入れ施設生活を体験してもらいました。

今年で4回目となる芦屋市社会福祉協議会主催の市内中学校対象の「夏休み福祉ボランティア」では、市内六中学校の生徒、計26名を受け入れ、施設を見学してもらいつつ、ご入居（利用）者の方々との交流を深めて貰いました。

「オレンジカフェ・フォーラムおしゃべり会」は、ボランティアの方々の協力を得つつ、認知症状のある方、地域の方、ケアハウスご入居者の他、地域包括支援センターや行政機関の方々等、多くの方の参加により、定例開催が定着し、平成31年3月までで40回を超える開催となりました。参加者は楽しい一時を過ごされると共に、地域包括支援センターや行政機関の方に悩みを相談される等、徐々につながりが広がってきています。

プログラムとしては、おしゃべり以外に「コンサート」や昔ながらの「折り紙」、「健康体操」「腹話術」等の内容に加え、男性の集まりの場とできないかと考え、「けん玉」の練習・習得を話題にするなど、様々に工夫をしながら、開催しています。また、折り紙カフェは毎月定例となり、運営もひとり一役のボランティアさん主体となってきました。

リングプル回収の取り組みは、平成25年11月から開始し、郵便局や銀行、大学、福祉専門学校等にも回収ボックスを設置させて頂き、地域の多くの方々からの協力を得て、平成30年1月19日(約4年4ヶ月)に、2Lペットボトル1167本(重さ：700kg)を、車椅子と交換することが出来ました。

その後、2台目の交換を目指して、平成31年3月末現在で430本まで回収が進んでいます。

本活動は車椅子を取得することだけが目的ではなく、リングプル回収を通じて人と人、組織と組織がつながる意味でも有意義な取り組みだと考えており、今後も引き続き、地域の皆さまを始めとして、人のつながりを大切にしつつ、取り組んでまいります。

【時代の変化に対応でき、将来的に安定した経営ができる基盤の確立】

経営基盤

「経営基盤」面では、毎週1回、各施設・事業所の管理者クラスが集まり、情報連絡会議を開催し、法人全体の運営や各事業における課題、利用率や介護度の状況等を共有し、安定した運営につながるよう取り組んでまいりました。

芦屋市内に施設や事業所が増えていること等により、ご入居（ご利用）者数の維持が大変厳しい状況にあり、利用率は、訪問リハビリとデイサービスが目標をクリアしましたが、その他の事業は、軒並み目標にわずかながら届きませんでした。

デイサービスについては、前年度は事業者間の競争が激しくなる等の影響から、ご利用者が激減しましたが、ご利用者獲得に向けた地道な活動に加え、近隣の他の事業所の閉鎖等もあり、今年度は逆にご利用者が増加することとなり、目標を達成できましたが、ショートステイは、職員の不足により、2月3月とご利用者受け入れを2名に絞ることとなり、大幅な目標未達となりました。

ヘルパー事業についても、身体介護ができる登録ヘルパー職員が思うように確保できず、赤字の状況が続くと見込まれることから、デイサービスとヘルパー事業の一体運用を模索していくことといたしました。

以上のような状況の中、平成30年度の法人全体の事業活動における収入は約850百万円、支出は約810百万円となり、事業活動資金収支差額は、平成29年度より15百万円程度増加して約41百万円となりました。但しこれは元ご利用者ご家族様から、特別に寄付金として頂いた10百万円が含まれており、これを除くと平成29年度並みの決算と言えます。今後増加していく設備改修を考慮すると、非常に厳しい状況であることに変わりはありません。

エルホームも開設から丸19年が経過し、建物設備も老朽化が進んでいることから、計画的に改修等を進めていく必要があります。

今年度は、冷媒であるフロンガス対応も考慮して進めてきました空調工事について、第二期工事を無事完了させ、緊急性の高い箇所の改修は終わることができました。また、ケアハウスにおいて、廊下に防犯カメラを設置し、ステーションから見守りができるようにする等、有効性をしっかり見極めつつ必要な

改修は着実に進めました。

平成29年4月から処遇改善体制加算率が引き上げられたことにより、平成30年3月に続き、平成31年3月に介護職員処遇改善一時金を支給する等の対応を行いました。処遇改善加算については、今後も同様に職員の処遇改善に最も有効な形となるよう対応していきたいと考えています。

以 上

※ 平成30年度事業報告附属明細書は、P11～P31のとおり